

## 親切運動の取組について

学校名 氷見市立西の杜学園  
児童生徒数 107名

### 1 親切運動の取組の紹介

#### ○ 「花鉢プレゼント（一人暮らし高齢者宅訪問）」

本校では、毎年校区の高齢者宅に花鉢を贈呈している。今年も民生委員さんのご協力の下、5・6年生児童が校区を巡回し、花鉢を贈呈した。この日のために、花苗を鉢に入れ換えたり、一緒に贈呈する手紙や折り紙を作成したりし、準備を進めた。訪問先では温かく迎えられ、緊張していた児童も笑顔で贈呈することができた。

この活動は、普段はあまり交流できない地域の方と触れ合う大切な場、優しさや温かさを感じる貴重な場となっている。



#### ○ 「全校挨拶運動」

今年度の児童生徒会は「笑顔があふれる西の杜学園」をめざし、挨拶運動に力を入れ、毎週月曜日の登校時に前期課程児童、後期課程生徒と一緒に玄関ホールに立っている。挨拶運動を始めるにあたり、児童生徒会執行部が全校児童生徒に向けて挨拶の大切さを話すとともに、よい挨拶を実演し、啓発活動を行った。

挨拶運動を行った日は、昼の放送で参加した児童生徒の名前を紹介するとともに挨拶の様子を振り返り、元気な挨拶を賞賛している。回を重ねる毎に、より元気な挨拶の声が聞かれるようになった。



#### ○ 「ほかほかの木」

全校児童生徒が、友達のよさを認め合ったり、伝え合ったりする取組として実施した。各学級で、友達にしてもらってうれしかったことや各自が見つけた友達のよいところをカードに書き、模造紙に貼り付けていった。模造紙は廊下掲示を行い、全校児童生徒で共有した。

日頃の何気ない言葉や行動の中にも思いやりや優しさがあることに気づき、温かな人間関係を育む機会となっている。



### 2 親切運動に取り組んで

#### <取組の成果>

良好な人間関係を築くためには、挨拶や心が温かくなるような言葉、地域の方とのコミュニケーションが大切である。各学年単級の小規模校ではあるが、義務教育学校のよさと地域連携が強固である強みを生かすことで、全校児童生徒に思いやりの意識が高まるとともに、地域の方との交流も深まっている。学校行事では後期課程生徒と前期課程児童の交流が円滑に行われており、どの行事も一体感の感じられる活動となっている。また、地域の方々との温かな交流は、ふるさと学習にも生かされており、多くの学びを地域の方々から得ている。

#### <課題と今後に向けて>

本校は年々児童生徒数が減少している。氷見市の中山間地の小規模校という条件の中で、人と人とのつながりの場をどのように創出していくかが今後の課題である。今後も義務教育学校ならではのよさと地域連携が強固である強みを生かして、人と人との関わりの中から温かみを感じる活動を行っていきたい。